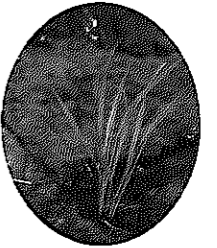


各地で田植え

5月、子どもたちも各地で田植えに挑戦しました。土の感触を確かめながら、小さな苗を大切に植えていました。



小さな田んぼに大きな夢

白井保育園

五月十一日、白井保育園の園児たちが田植えをしました。小林勝さん（掘掛）らの指導で、苗を植えた田んぼは、鮮魚店から譲ってもらった発泡スチロールの空き箱、七箱。園児たちは毎日観察して、苗の成長する様子に感動しているそうです。
「みんなの夢は「収穫したお米でカレーライスを食べること」です。ちよっと足りないかな」と、笑顔で見守る先生たち。苗も園児も、すくすくと成長しています。

稲作を通して「食」を学ぶ 白根小学校

五月十一日、白根小学校の五年生約百五十人が、白根地域消防本部わきの田んぼで田植えを行いました。田んぼを提供してくれたのは長井知雄さん（能登五）。四月の種まきから、子どもたちの指導もしています。子どもたちのほとんどが、「田植えをするのは初めて」。どろんこになりながら、一生懸命に苗を植えていました。

この田植えは、「総合的な学習の時間（総合学習）」の授業の一環として行われたもの。総合学習とは、子どもが課題について追求し、自分の判断で問題を解決していく力を養うことなどをねらいとするもので、平成十四年度から小学校で完全実施される授業です。

同小学校五年生の総合学習のテーマは「食」。収穫までの稲を栽培する活動を通して、植物の成長や食糧を生産する人たちの工夫や努力、さらに、「食」にかかわる生活や環境問題などについて学習していきます。



五月十五日、庄瀬小学校の四・五年生とおおば学級の児童七十人が、田植えを行いました。これは、「今は見られなくなった「湿田での田植え」を体験し、子どもたちに先人の苦勞や自然を愛することを知ってほしい」と、同小学校PTAや白根郷農地防災事業所などの主催で行われたものです。

そのため、用意された田んぼは、ひざまで泥に潜る湿田。足を取られて転びそうになりながらも、みんな



湿田田植え体験 庄瀬小学校

元気な苗を植えていました。終了後、「今日、自分が植えた分は少しだけけれど、昔の人は大変だったと思う」という感想も聞かれました。
子どもたちは今後この田んぼで、社会科や総合的な学習の時間を活用し、ドジョウなどの生態系の観察や、草取り・稲刈り・はさ掛けなどの農作業を体験していきます。

TOPICS

出会い、体験、楽しさいっぱい

白根学習館オープニングイベント

六月十日から十八日までの九日間、白根学習館オープニングイベントが開催されました。これは、白根学習館の開館を市民自らの手で祝おうと、公民館や旧青年教育

センターなどの利用者が集まって企画したもので、六十二の団体が参加しました。

ラスベックホールでは、オカリナやアコーディオンの演奏、ロックコンサート、コーラスや踊りの発表などが行われ、出演者に大きな拍手が贈られていました。交流広場や各研修室等では、洋画や盆栽などの作品展のほか、茶会や押し花アート、インターネット、陶芸の絵付け教室などの体験コーナーが設けられ、子どもから大人まで一緒になって文化・芸術に触れていました。

イベントに訪れた人たちは「たくさんの方が、いろんなことを一生懸命やっていると驚きました」「広くてきれいな図書館をはじめ、とても素晴らしい生涯学習施設が出来てうれしい」と、感想を聞かせてくれました。



白根学習館へ絵画を寄贈 若竹会



五月二十五日、若竹会が白根学習館へ絵画を寄贈しました。同会は、本市発展のため尽力することを目的に昭和二十六年に発足。これまで、子ども大風合戦の優勝旗、老人福祉センターの白寿の石碑などを寄贈してきました。会長の狩谷松雄さんは「発足当時は六人の会員が、現在は三十二人。今後も市発展のため力を注ぎたい」と話しています。
寄贈された絵画は大風合戦を題材にしたもので、タイトルは「戦い終わって」。会員の伊藤栄一さんが、六カ月を掛けて製作したものです。

好プレー、珍プレー続出 第34回新潟県壮年野球下越地区連盟春季大会



五月二十一日、諏訪木運動広場など三会場で、新潟県壮年野球下越地区連盟主催の「第三十四回新潟県壮年野球下越地区連盟春季大会」が行われました。大会には白根市をはじめ、近隣市町村から全十一チームが参加。開会式では、白根壮年野球クラブの松沢幸治さんが「われわれ熟年選手一同は、優勝を目指し、精いっぱい戦うことを誓います」と選手宣誓しました。
試合では、ファイブプレーや珍プレーが続出し、大きな声援や拍手が送られていました。